

## みやぎ生協の役員・職員が来訪 復興に向けてコープこうべと交流

1月16日と17日、みやぎ生協の役員・職員10人が阪神・淡路大震災追悼関連行事にあわせて来神しました。

これは、まもなく東日本大震災から1年を迎えるにあたって、今後の復興に向けた取り組みやボランティア活動について話し合い、両生協間の交流を図ろうとコープこうべが招待したものです。

16日は、コープこうべ協同学苑内にある史料館を見学。阪神・淡路大震災生協資料展示室では、被災後の様子や復興の過程に関するパネル、資料を真剣に見入っていました。

続いて近隣にあるコープ三木緑が丘を見学した後、神戸へ。夕食懇親会では、みやぎ生協からは被災地の現状や活動の課題、コープこうべからは支援の取り組みなどについての報告がありました。

17日は、「阪神淡路大震災1・17のつどい」に参加後、コープこうべ第3地区主催の「震災モニユメントウォーク」に加わり、三宮駅から記念碑などをたどって「賀川記念館」、HAT神戸へ。「都心のエリアに震災モニユメントや防災施設、それに生協の父と言われている賀川先生ゆかりの足跡も点在していて、歩き甲斐があります」との声があがりました。

続けて生活文化センターで開催された慰霊祭に出席しました。

午後からの交流会ではコープこうべ組合員も交え、今後どのような支援が必要かなどを語り合いました。「神戸からの支援は特別なもの

として受け止める被災者も多い。これからも引き続き手を取り合っていければ」とみやぎ生協の参加者は話していました。

また席上で、沼倉優子みやぎ生協副理事長から山添令子コープこうべ常勤理事に、コープこうべの組合員に向けた、絆メッセージが手渡されました。これは、昨年コープこうべの組合員が書いた、応援メッセージを届けたのに対して、みやぎ生協の組合員がお礼や近況報告を書いたメッセージカードです。



阪神・淡路大震災生協資料展示室を見学



震災モニユメントウォークでは、震災後の神戸の街づくりなどを見学



“絆メッセージ”を手にする沼倉優子みやぎ生協副理事長(左)と山添令子コープこうべ常勤理事